

レディー・アン・リンズィ

## 1 年とったロビン・グレイ

羊が囲いに戻り 雌牛が牛舎ねぐらに帰るころ  
疲れ果てたものたちが 安らかな眠りについたころ  
深い悲しみが 涙の雨を降らせます  
気付かぬ良人は 傍らですやすや眠っています

若いジェイミーがわたしを愛し お嫁さんにと言ってくれましたが  
一クラウン銀貨のほかは 一文無しの彼でした 5  
せめて四倍の一ポンドをと ジェイミーは海に出てゆきました  
一クラウンと一ポンド ああ どちらもわたしのためでした

ジェイミーが去って 十二か月と一日も経たないうちに  
父さんは腕を折り 家の雌牛が盗されました  
母さんも病に倒れ ジェイミーは海に出たっきり  
そこに 年とったロビン・グレイが求婚してきたのです

父さんは働けず 母さんも糸が紡つむげず  
昼も夜もこの身を粉に働いても パンも買ってあげられません  
ロビンが救いの手をのべ 涙をためて言うのです 15  
「ジェニー お父さんらのためと思って結婚しておくれ」

心の中でははっきり嫌だと ジェイミーの帰りを待ちました  
でも ひどい風が吹き ジェイミーの船が難破しました  
愛する人の船が難破したのに このジェニーはどうして死ななかつたの  
わたしだけが生き残り 泣き悲しむことになるなんて 20

父さんは強く押しつけました 母さんからはひと言も  
でも わたしの顔をじっと見たので 心は張り裂けそうでした  
結局わたしはうんと言わされ でも 心は遠く海の中  
こうして 年とったロビン・グレイがわたしの良人おっとになつたのです

ロビンに嫁いで四週間も経たない頃 25  
涙に暮れて 戸口の石にすわっていると

ジェイミーの亡靈が現れて　まさかと思えば  
「恋人よ 戻ってきたよ さあ結婚しよう」と言うのです

激しく激しく二人で泣いて　たくさん語り合いました  
口づけだけで　わたしは彼に「消えておくれ」と頼みました  
死にたいと思っても　まだ死ねそうにありません  
まだまだ若く　泣いてばかりもおれません

まるで抜け殻のようになり　糸<sup>つむ</sup>紡ぎにも身が入りませんが  
罪だから　ジェイミーのことは考えぬよう  
そしてできるだけ　いい奥さんになるように努めます  
年とったロビン・グレイが　とても親切ですから

(山中光義訳)